

長山地域コミュニティ協議会 設立について(案)

〔編集・発行〕
長山地域コミュニティ設立準備会
会長 信夫 利彦
(市担当課 市民協働課 ミニシティ推進グループ)

私たちの毎日の生活においては、少子高齢化の進展に伴う課題や、安全・安心な暮らしに関する課題など様々な課題があります。これらの課題の解決に向けては、行政主体の対応だけでは限界があることから、地域に住む私たち住民の力が真に求められています。

現在、龍ヶ崎市は、市内13のコミュニティセンターを活動の拠点とする中核的な地域コミュニティの形成を主要施策の一つに位置づけており、地域で活動する各種団体などが、地域における情報や課題を共有化しながら、連携・協力する組織づくりを目指しています。

長山地区においても、自治会をはじめ、防犯連絡会議、小中学校PTA、長寿会、民生委員児童委員、コミュニティセンター活動推進協議会、コミュニティセンターの代表者などが集まり、「長山地域コミュニティ設立準備会」を設置し、平成24年7月から話し合いを進めてきました。これまで9回の会議を重ね、最終的な案がまとまりましたのでご報告します。



準備会の様子

長山地域コミュニティ設立準備会 協議経過

開催日	主な協議内容
H24. 7. 21	・ 設立準備会の会則・役員など
H24. 8. 8	・ 地域コミュニティ補助金の予算案 ・ 地域コミュニティ協議会の組織案
H24. 9. 15	・ 地域コミュニティ協議会設立の時期 ・ 地域コミュニティ協議会の規約案
H24. 10. 13	・ 地域コミュニティ補助金の予算案 ・ 地域コミュニティ協議会の組織案
H24. 11. 17	・ 各戸配付の中間報告用チラシ ・ 防犯・防災委員会の活動内容
H24. 12. 15	・ 地域コミュニティ協議会の規約案
H25. 1. 12	・ 地域コミュニティ協議会の規約案
H25. 2. 2	・ 地域コミュニティ協議会の規約案 ・ 各戸配付の最終報告用チラシ
H25. 2. 16	・ 各戸配付の最終報告用チラシ

長山地域コミュニティ設立準備会 委員

役職	氏名	備考
会長	信夫 利彦	長山地区自治会連合会 会長 長山8丁目自治会長
副会長	来栖 豊	長山地区自治会連合会 副会長 長山1丁目自治会長
	三浦 孝喜	長山4丁目自治会長
	岩井 宜道	長山6丁目自治会長
	小野 麻	県営長山アパート自治会長
	松田 健吾	長山地区防犯連絡会議 代表
	原田 淳一	長山小学校PTA 会長
監事	佐子川広一	長山中学校PTA 会長
監事	渡辺 昭司	長山長寿会 会長
	今枝 力	龍ヶ崎市西部地区民生委員児童委員協議会 前会長
副会長	田賀 直樹	長山コミュニティセンター活動推進協議会 会長
会計	車田 勇	長山コミュニティセンター センター長
会計	中山 理子	長山コミュニティセンター 副センター長

長山地域コミュニティ協議会としての第一歩を踏み出そう。 — 設立に向けてのお願いとごあいさつ —

長山地域コミュニティ設立準備会 会長
長山地区自治会連合会 会長
長山8丁目自治会 会長
信 夫 利 彦

私たちの居住する長山地区においては、自治会をはじめ、防犯連絡会議、小中学校PTA、長寿会、民生委員児童委員、コミュニティセンター活動推進協議会の団体などが、活発に活動をしています。このように地域活動が盛んに行われているのは、ひとえに諸先輩方の献身的でたゆまぬご努力の賜物であると感謝しております。

私たちは昨年7月に「長山地域コミュニティ設立準備会」を設置し、長山地区で活動する団体などの代表者が集まり協議をしてまいりましたが、会議の席で感じたのは、これまで団体間における相互の交流や、連携する機会はあまり多くはなかったのではないかとということでした。

これを踏まえ、地域コミュニティの設立にあたっては、それぞれの活動状況や、活動に関連する諸問題について協力できる体制づくりこそ、優先すべき検討課題であることを念頭に置いて話し合いを行いました。

地域コミュニティ設立の検討を確実に前進させるため、このように優先課題を設けたのには理由がありました。ご存知の通り、長山地区においては、会長を含めた自治会の役員は1年交代となっております。優先課題を設けることなくただ話し合うだけでは、何の結論も得ることができず、次の役員へバトンタッチとなってしまいます。これでは毎年同じことの繰り返しとなってしまうことが懸念されます。つまり何年たっても、地域コミュニティの設立には至らないのではないのでしょうか。

設立準備会では、長山地区で活動するさまざまな団体などが参画する組織づくりと、それぞれが取り組む活動内容を考慮した委員会を置くとする規約（案）をまとめました。長山地域コミュニティ協議会（以下、「地域コミュニティ協議会」とします。）として、第一歩を踏み出さなければ、組織として何が良くて、何が悪いのかも分かりません。今後修正すべき点があれば、住民の皆さま方の建設的なご意見を頂きながら見直しを行い、より良い組織へとつなげていきたいと思っております。

地域コミュニティ協議会を設立した後も、自治会活動のほか、秋祭りなどのコミュニティセンター活動推進協議会活動、あるいは防犯連絡会議の活動といった地域活動は、これまで通り行われます。また、市へ申請することにより自治会へ交付されておりました地域づくり補助金は、地域コミュニティ協議会における自治会活動支援費として同等額を予算付けしてまいりますので、長山地区における活動そのものが大きく変わるものではありません。繰り返しになりますが、今回の地域コミュニティ協議会設立は、団体間の連携協力できる場をまず始めに作っていかうとするものであります。

最初から完璧な組織づくりは望めません。組織としての第一歩を踏み出して、住民の皆さま方による長山地区を支える活動を、一層活発化させていきたいと考えております。初年度よりは次年度、さらにはその次の年度というように、地域コミュニティ協議会の活動は、徐々に真価を発揮するものと確信いたします。

この点も含めまして、住民の皆さま方には、今回の地域コミュニティ協議会設立につきまして、ご理解をお願い申し上げます。

最後になりましたが、長山地区の住民の皆さま方と、設立準備会にご参加いただいた委員の皆さま方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

熟年者の知恵や技術・ノウハウを地域コミュニティ活動へ活かそう！

長山地域コミュニティ設立準備会 副会長
長山コミュニティセンター活動推進協議会 会長
田 賀 直 樹

昨年7月の新聞報道（7月15日読売新聞）で「注目を集める健康寿命」という記事が掲載されていました。日本は世界でも有数の長寿大国と言われており、平均寿命は男性が80歳、女性が86歳ですが、「健康寿命」とは健康で自律して支障なく生活できる年齢寿命を指しており、男性が70歳、女性が74歳だということだそうです。すなわち、平均寿命と健康寿命との差が男性は10年、女性は12年となります。この期間は、日常生活に支障があり、介護や他の人に面倒を見てもらう必要のある「不健康期間」であるという衝撃的な記事でした。

また、龍ヶ崎市民の年齢構成情報を見ますと、平成22年の長山小学校区の住民で65歳以上の高齢者の比率が14.1%で、平成17年の9.7%から、5年間で4.4%も増加しているわけです。団塊の世代がこの年齢に達することで、今後ますます増加すると思われる。

こう申し上げますと、長山地区の将来は老人ばかりで、人に面倒を見てもらう人が増えて暗い将来を想像されるかもしれません。しかし、悲観するのではなく、この一年間、私も地域活動を通して色々な方々の話を聞き、一緒に行事や活動を共に行いまして、この地域には素晴らしい方々が大勢活躍されていることを知りました。一例を挙げるとセカンドライフセミナー講師で税理士の末成和良様や、新春講演会で「食と健康について」と題してご講演いただいた、松葉の薬方堂の佐藤成志様など、人生の生き方や日常生活の食事の大切さを改めて教えていただいた気がしております。また、地域で各種サークル活動（コーラス・踊り・太極拳・楽器演奏など）をされている方々も、新春祭りで生き生きと目を輝かせて演技や演奏を披露してくれました。このように元気で活躍されている方々は、他の人とのつながりや絆を大切にしている事がうかがえます。

地域コミュニティ設立準備会では、この1年間、安心・安全な街づくりについて議論してきましたが、地域の素晴らしい人財（人材）のネットワークを構築して、熟年者の経験や知識・技術を生かして、平成25年度より新しい組織を構築し、住みやすい環境を整備していきたいと考えております。

各自治会やサークル活動を行っている皆様や、企業や社会で第一線のお仕事を終えて悠々自適な生活をされている方々にも、ご協力やご意見をいただき、長山地域コミュニティ協議会に参加していただければと存じます。

班から自治会、自治会から長山地域コミュニティへの輪を広げよう！

長山地区防犯連絡会議 代表 松田 健吾

長山地域コミュニティ設立準備会が昨年7月に発足し、私は防犯連絡会議を代表して協議に参加してきました。設立準備会の席で感じたのは、各自治会にはそれぞれ課題がある中で、信夫会長をはじめ準備会に参加された自治会長の皆さんが、地域コミュニティの大切さを身をもって示され、長山地域コミュニティ協議会の設立に向け、まとめていこうと努力されている姿でした。5人の自治会長の皆さんに敬意を表しますとともに、未来への明るい展望を感じております。

長山地域コミュニティ協議会設立後、私たち防犯連絡会議は、協議会の防犯委員会に参画し、従来からのパトロールや子どもたちの見守り活動を継続します。地域の皆さんには、月1回でも構いませんので、ご自分の都合の良い時にパトロールに参加くださるようお願いしたいのです。パトロールや子どもたちの見守り活動への参加は、「隣近所が仲良くお互い助け合う」ことを核とした「班から自治会、自治会から長山地域コミュニティ」への輪を広めていくことへの「キッカケ」となることでしょう。

長山コミュニティセンターは地域コミュニティ活動の拠点となりますが、長山の住民の皆さんのよりどころとして、いつでも誰でも、気軽に立ち寄れる施設となるよう、住民、地域、行政がお互いに努力することが必要と思います。

住み良い長山地区を皆さんの力で！

長山長寿会 会長 渡辺 昭司

長崎弁や京都弁、秋田弁の話し声の聞こえるニュータウン長山の街で、長山地域コミュニティ設立準備会が始動し、市役所の支援のもと、自治会、防犯連絡会議、小中学校PTA、民生委員児童委員、コミュニティセンター活動推進協議会のそれぞれのリーダーのみなさんに長寿会も加わり、地域コミュニティの構築に向けて幾度となく会合し議論を重ね、現在に至っております。これまでこのような議論が無かったことが、むしろ不思議だと感じております。

長寿会としても、コミュニティセンターを基点として、平均年齢80歳の皆さんと楽しい憩いの集いとして様々な活動を行っています。主な活動内容としては、年5回の例会、年3回の旅行、年2回の教養講座、その他サークル活動として健康マージャン、カラオケ、囲碁・将棋やヘルス体操への参加、草取りのボランティアなどがあります。また、孤独死やうつを防ぐため、“一声かけ合い、昔の隣組精神”のようなことも大切なポイントかと思っております。

そして今後は、会員のみならず長山地区の長寿の皆さんと敬老の日のお祝いの集いを催すのも、意義があると思います。この長山地域コミュニティ協議会が設立されたならば、長山の街を多くの組織のライトで明るく照らすことで、間違いなくより住み良い長山地区をつくり上げることが可能となるでしょう。